



大洋州上下水道協会「ベンチマーキング報告書」 (その1)

(はじめに)

大洋州上下水道協会 (PWWA : The Pacific Water and Wastes Association) は、あらゆる水問題に対処するために大洋州地域を支援することを目的として 1995 年に設立された非営利の会員組織であるとのことです。

PWWA は上下水道セクターにおいて運営を行っている組織の地域協会であり、この役割は地域全体を通じた人々の福祉を高揚する良質の水関連サービスの提供にあります。会員は、国際的な水機関、民間セクターの設備・サービス供給会社、請負業者及びコンサルタントとともに、大洋州の上下水道事業体で構成されており、事務局はサモアに置かれています。

一方、PWWA は「ベンチマーキング報告書」を 2011 年 12 月に刊行しており、その中では、ベンチマーキングのデータやプロジェクト報告が掲載されています。

そこで、以下に「ベンチマーキング報告書 (2011 年 12 月)」の概要を紹介することとします。

なお、本報告書の翻訳については、「大洋州上下水道協会 (PWWA)」の承諾を得ていることを申し添えます。

(出典) 大洋上下水道協会「ベンチマーキング報告書 (2011 年 12 月)」

<http://www.pacific-iwrm.org/community/showthread.php?35-Pacific-Water-Utilities-Benchmarking-Report>

(参考1) 「大洋州上下水道協会」の正会員の国・地域

American Samoa、Commonwealth of the Northern Marianas、Cook Islands、Federated States of Micronesia、Fiji、French Polynesia、Guam、Kiribati、Marshall Islands、Nauru、New Caledonia、Niue、Palau、Papua New Guinea、Solomon Islands、Tokelau、Tonga、Tuvalu、Vanuatu、Wallis and Futuna、Samoa

(参考2) The Pacific Water and Wastes Association (PWWA)のホームページ

<http://www.pwwa.ws/>



(出典) <http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol89/index.html>

「ベンチマーキング報告書（2011年12月）」－目次－

序文

報告書の概要

要約

パートA：ベンチマーキングデータ及び所見

- 1 パートAの目的
- 2 背景
- 3 範囲及び限界
- 4 採用したベンチマーキング指標
- 5 参加事業体から受け取ったデータ
- 6 参加した国及び事業体
- 7 事業及び資産の概要
- 8 ベンチマーキングの結果及び所見
- 9 総合成績（Overall Performance）
- 10 事業体を見渡しての課題
- パート11 業務改善のための重点分野
- 12 結論及び提言

パートB：ベンチマークプロジェクト報告

- 1 パートBの目的
- 2 背景
- 3 プロジェクトの指標
- 4 プロジェクトの手法及びプログラム
- 5 ベンチマーキングのワークショップ
- 6 ベンチマーキングプロジェクトからの教訓
- 7 将来のベンチマーキングの方向
- 8 結論及び提言

参考文献

- 付属書A：事業体及び主要ベンチマーキング連絡先
- 付属書B：参考文献リスト
- 付属書C：質問票の書式及び記入要領
- 付属書D：指標の定義
- 付属書E：データの信頼性の定義
- 付属書F：独立水計画協会（IWSA）の概要（コミュニティ組織）
- 付属書G：ベンチマーキングワークショップの出席者
- 付属書H：ベンチマーキング質問状の改善案
- 付属書 I：水道事業者の成績評価

序文

2010年、大洋州上下水道協会（PWWA）は、会員水道事業者が総括的な管理及び意思決定を支援するための共通の業務指標を開発することを支援するため、会員事業者のためのベンチマーキングを設定することを決定した。

ベンチマーキングの主目的は、お互いに比較し、他から学ぶことにより、水道事業者の業務成績を改善することである。業務成績のモニタリングは、また、水道事業者における情報及び意思決定の改善に向けて大いに貢献することができ、情報の共有及びベストプラクティスを通じて業務成績で足りない点を確認し改善を果たすことができる。ベンチマーキングが最終的には大洋州諸国のよりよい水道サービスに貢献するであろうことをPWWAは確信する。

プロジェクトを実施するに当たって、大きな課題は水道事業者の業務成績に関する信頼できる情報の入手であった。これは、大洋州地域の水・衛生セクターの業務改善及び制度改革を進めるうえで重要な要素であり続けるであろう。PWWAは地域組織として、喜んで、当該セクターのためのこの重要なデータベースを立ち上げ発展させるこのプロジェクトを通じてイニシアティブをとるものである。

PWWAは、大洋州インフラ・ファシリティ（PRIF）及びそのパートナー、すなわち、アジア開発銀行、オーストラリア国際開発庁、欧州連合、欧州投資銀行、ニュージーランド外務貿易省及び世界銀行により提供された支援に感謝するものである。

報告書の概要

はじめに

2010年9月、会員事業者を代表する大洋州上下水道協会（PWWA）、太平洋諸国応用地球科学委員会（SPC-SOPAC）及び大洋州インフラ助言センター（PIAC）は覚書に調印し、大洋州の水道事業者のための持続可能なベンチマーキングシステムの設立について協働するという3組織の合意を表明した。ベンチマーキングシステムは、業務成績を改善するために水道事業者を支援することを意図す

るものであり、当該地域における水セクターの業務成績に関する情報を入手しやすくであろう。覚書において、PWWA は全般的な調整役を有し、SPC-SOPAC は技術支援を提供し、PIAC は技術支援について調整を行うことに合意した。

ベンチマーキングシステムのための技術支援は、2011年2月から8月の間に行われた全ての参加事業体に対するデータ収集とともに、2011年2月に開始された。このベンチマーキング報告書案は、データ分析の所見を提示するとともに、主な関係者及び参加事業体に知らせることを意図している。報告書案は、2011年9月26日及び27日にフィジーで開催されたPWWA会議に関連したベンチマーキングワークショップの間に提出され、議論が行われた。

プロジェクトの目的

このベンチマーキングプロジェクトは、PWWAメンバーに間で過去に合意されたところの、2009年に開始されたPWWAによる限定された数の主要業務指標に対するベンチマーキングの取組みを基礎としている。このプロジェクトのねらいは、大洋州の水サービス事業者（WSPs：Water Service Providers）に対するベンチマーキングの枠組みを設立することであり、以下の主な目的に貢献するものである。

■主な目的

- ・参加水道事業体のサービス提供レベル及び効率性の改善
- ・水道事業体の情報及び管理の意思決定の改善
- ・大洋州全域の水インフラ提供における業務成績のギャップについてのよりよき理解
- ・長期にわたって業務成績ベンチマーキングシステムの持続を支援するための情報収集及び報告を行うための水道事業体の能力及び意欲の向上

報告書の構成（パートA及びパートB）

この報告書は、主に以下のパートで構成されている。

- ・パートA－ベンチマーキングのデータ及び所見
- ・パートB－ベンチマーキングプロジェクト報告書

要約

ベンチマーキングからの主な所見及び考察

(1)採用したベンチマーキング指標

2009年、PWWAはメンバーの基準となるデータ収集及びベンチマーキングのプロセスを開始した。これらの指標はPWWAメンバーによって合意されたものであり、PWWA自身の戦略プランの中に含まれ、本調査で採用された一連の中核となる指標の基礎を形成した。これらの指標は、将来において国際的なIB-Netベンチマーキングの枠組み指標に含まれることが可能となるように、当該指標に特に焦点を置いて敷衍された。指標の定義は付属書Dに示されている。

このベンチマーキングイニシアティブのもとに算定された指標は、各々の指標に対して適切であると思われる他の国際的な調査において用いられている一定の指標と比較されている。

大洋州の水道事業体での比較は、大洋州内及び様々な目的のための他の管轄区域での過去のイニシアティブからの結果に対する比較により補完される。

(2)主要統計

本報告書パートA「8 ベンチマーキングの結果及び所見」では、ベンチマーキング調査の主な所見が示されている。

データの正確性の問題にもかかわらず、収集されたデータから作成されたいくつかの主要な統計は以下のとおりである。

■主要な統計

- ・事業体の28%は水源の不足に直面しており、事業体の62%は配水ネットワークにおける貯水能力が24時間未満である。
- ・給水区域における平均普及率は、水道が76%、下水道が32%である。
- ・事業体の25%はネットワークにおける残留塩素がゼロである。
- ・事業体の三分の一は、週7日間24時間給水することができていない。
- ・給水接続件数当たり浄水生産量は中央値で1.96m³/件/日と多く、そのうち60%が顧客に対して料金請求されている。
- ・1人当たり浄水生産量は、大洋州全体を通じて、設計で一般に用いられる単位需要量を超過している。
- ・無収水率の平均レベルは1.0m³/接続・日（又は浄水生産量の47%）であり、生産費用と失われた収入という見地からは年間約5千万米ドルに等しい。
- ・平均的な職員数割合は1,000接続件数当たり11人である。
- ・大洋州における新規接続は、世界の他の地域と比較すると、非常に容易なものとなっている。
- ・大洋州における水道料金は比較的に低廉であり、水道の基本料金（6m³/1接続・1月として）は非常に手頃なものとなっている。平均水道料金は、使用量がかかなり多いことから、比較的に高いものとなっている。
- ・営業費用回収率（中央値。減価償却費を含まず。）は98%であり、大洋州の水道事業体の大半は、更新又は拡張のための予算がない中で、事業運営が収支トントンであることを意味している。
- ・大洋州の料金回収率（中央値）は98%である。
- ・民間セクター管理のもとで又は民間セクターがかかなり関与して運営している事業体は、技術的及び財政的に良好な業務実績を示している。

(3) 総合成績及び重要課題

収集されたデータを用いて水道事業体の総合的な比較を進めるため、総合業務指標（OPI：Overall Performance Indicator）が用いられた。報告書の第9章は総合業務指標の基礎を提示している。報告書のパートA第9章は、また、総合効率指標（OEI：Overall Efficiency Indicator）を提示しており、本質的には財政面の業務総合指標となっている。

主な所見：総合成績

- ・収入からみて高い総合成績である事業体は、より高い総合成績グループ（財政面及び技術面の両面において）である可能性が高いし、同様に、良好な総合成績である事業体は良好な収入回収となっている可能性が高い。民間会社又は民間・政府合弁会社は、OPI及びOMIという点で明らかに良好な成績である。
- ・政府の部局及び法定機関は低めの業務成績であるが、財務的な成績に関しては国所有企業（SOEs：State Owned Enterprises）が最悪となっている。
- ・事業体の成績は、OPIに関しては上位5事業体の中に一つの小規模事業体（Phonpei）が存在することは注記すべきではあるものの、大規模事業体が最良の成績であるという規模に関係している。
- ・成績が上位5事業体は、Unelco（バヌアツ）、Eda Ranu、WaterPNG、FSM、Pohnpei及びTonga Water Boardである。

配信先変更のご連絡等について

「JWRC水道ホットニュース」配信先の変更・追加・停止、その他ご意見、ご要望等がございましたら、会員様名、担当者様名、所属名、連絡先電話番号をご記入の上、下記までEメールにてご連絡をお願いいたします。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-8-1 虎ノ門電気ビル2F (公財) 水道技術研究センター ホットニュース担当

E-MAIL : jwrchot@jwrc-net.or.jp

TEL 03-3597-0214 FAX 03-3597-0215

また、ご連絡いただいた個人情報は、当センターからのお知らせの配信業務以外には一切使用いたしません。

水道ホットニュースのバックナンバーについて

水道ホットニュースのバックナンバー（第58号以降）は、下記アドレスでご覧になれます。

<http://www.jwrc-net.or.jp/hotnews/hotnews-h24.html>